

ファッションを通して  
うれしいの連鎖を

vol. 11

しんどさんこばなし



一步先の、新どさんこを  
新どさんこ研究所  
山岸所長が訪れる



新どさんこ

#11

大石 靖彦さん  
大石 みさきさん

株式会社トラで靖彦さんは代表取締役、みさきさんは取締役専務を務める。1984年、札幌文化屋雑貨店をオープン。89年にオリジナル商品「トラ」を展開し始め、その後、姉ブランド「ジゴ」を立ち上げる。96年、社名を「トラ」に変更。現在、札幌駅直結バセオの「ジゴ」をはじめ、札幌、旭川で計7店舗を展開。

手作りの服で育ったから  
モノづくりは自分たちで

レディースファッションブランド「ジゴ」と「メラロンジゴ」を北海道内で7店舗展開する株式会社トラ。現在、数十人のスタッフを率いるのは、会社を二人で立ち上げた大石靖彦さん、みさきさん夫妻。ファッションをこよなく愛する二人の仕事ぶりは、夫婦二人三脚というよりも一心同体と表現する方が的を射ている。

別々のまちで生まれ育った二人だが、共通する感性が育まれていた。北見市出身の靖彦さん。母親は洋裁のプロで、人に晴れの日の服を届けるのは日常の風景。「子どもの頃から、僕も足踏みミシンを使いこなしていましたよ」と笑う。旭川市出身のみさきさんもまた、「服は母親の手作りが当たり前でした」と話す。「朝起きると、母が縫った新しい服が枕元に置いてあった」と振り返る。だから二人は異口同音にこう言う。「モノづくりは自分たちでやるもの」と。

服でいい日々を届けたい

1984年、靖彦さんは友人と札幌文化屋雑貨店を立ち上げる。当時からオリジナルのTシャツや雑貨を作っていたが、生産は「手作りできる範囲」。結婚後、広告業界でスタイリストとして活躍していたみさきさんと共にオリジナルブランドをスタート。今でもみさきさんがデザインし、靖彦さんがサンプルを縫製して二人で海外の工場に向く。ヨーロッパでの展示会も含め、1年の3分の1以上は海外を飛び回る。

トラの各ショップでは毎週新しい商品を入荷。「その方が、スタッフもお客さんも楽しいでしょ」と笑うみさきさん。全国にファンを持つブランドに成長した今も、東京進出は頭がない。「二人とも札幌が大好きだから」。これからも二人で、北海道から世界に通用するファッションを発信し、いい服に出合う、いい日々を届ける。



ファッションにお金を  
かけたいと思っている  
北海道の女性は32%  
北海道民の経済意識はこちら

<http://shindoken.com>

新ど研

しんどさんこ研究所

インタビュー

新どさんこ研究所 所長

山岸 浩之

Hiroyuki Yamagishi

2014年北海道博報堂入社。

コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、北海道の様々なクライアントの戦略立案やリサーチを担当。

